

GLU-Ca

091155/02-2601

体外診断用医薬品

届出番号：13E1X00002000077

クラス I 生化学検査用シリーズ
血液・尿検査用グルコースキット
血液・尿検査用カルシウムキット

ビトロス® XTスライド GLU-Ca

**2026年 1 月改訂 (第3版)

*2019年12月改訂 (第2版)

【警告】

ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者において、実際の血糖値より高値を示すおそれがあるので、ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者における血糖測定値に対する影響について、事前に製造販売業者から情報を入手すること。[ブラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者で、実際の血糖値よりも高値を示すことがあり、その偽高値に基づきインスリン等の血糖降下剤を投与することにより、昏睡等の重篤な低血糖症状があらわれるおそれがある。]

【全般的な注意】

- ・本製品は、体外診断用医薬品であり、指定された目的以外には使用しないで下さい。
- ・診断は他の関連する検査結果や臨床症状に基づいて総合的に行って下さい。
- ・本電子添文において示された以外の使用方法については保証を致しません。
- ・使用する機器および試薬の電子添文又は取扱説明書をよく読んでから使用して下さい。

【形状・構造等 (キットの構成)】

GLUテスト

グルコース試薬スライド

反応に関与する成分

グルコースオキシダーゼ

ペルオキシダーゼ

1,7-ジヒドロキシナフタレン

塩酸4-アミノアンチピリン

Caテスト

カルシウム試薬スライド

反応に関与する成分

アルセナゾⅢ

GLUテスト

1. 上スライド・マウント

2. 拡散層 (TiO₂)

3. 試薬層

・グルコースオキシダーゼ

・ペルオキシダーゼ

・塩酸4-アミノアンチピリン

・1,7-ジヒドロキシナフタレン

・緩衝液 pH5.0

4. 支持層

5. 下スライド・マウント

Caテスト

1. 上スライド・マウント

2. 拡散層 (TiO₂)

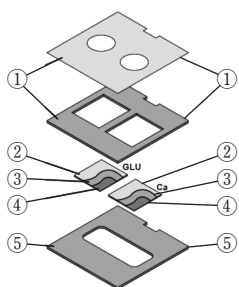
3. 試薬層

・アルセナゾⅢ

・緩衝液 pH5.6

4. 支持層

5. 下スライド・マウント



【使用目的】

GLUテスト

血清、血漿又は尿中のグルコースの測定

Caテスト

血清、血漿又は尿中のカルシウムの測定

【測定項目について】

GLUテスト

グルコースは、細胞エネルギー源です。空腹時と経口糖負荷後の血中グルコースは、真性糖尿病と炭水化物の代謝異常の診断に使用されます。血中グルコースは、糖尿病患者および脱水、昏睡、低グルコース血症、インスリンノーマ、アシドーシス、ケトアシドーシスの患者の治療モニターに用いられます。¹⁾

Caテスト

カルシウムは、骨の主な鉱質成分で、体内のカルシウムの99%が骨に存在します。カルシウムイオンは、神経刺激の伝達および筋肉の収縮の維持などで重要な役割を占めています。血中カルシウム値の異常は、副甲状腺機能不全、骨疾患、癌、栄養不良あるいは吸収不良、ビタミンDの不足、カルシウムを含む制酸薬の過剰投与、腎疾患で見られます。²⁾

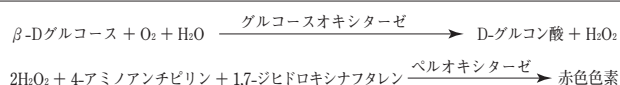
【測定原理】

GLUテスト

本品は、透明なポリエステル支持体に乾燥状態の分析試薬が、多層状にコーティングされています。

検体がスライドに分注されると、多孔性の拡散層で均一に拡散されると同時に、下層に浸透されます。検体中のグルコースはグルコースオキシダーゼにより酸化され、過酸化水素とD-グルコン酸になります。更に、色素前駆体の4-アミノアンチピリン、1,7-ジヒドロキシナフタレンの存在下において、過酸化水素、ペルオキシダーゼによって酸化カップリング反応が起こり、赤色色素が生成されます。この色素の反射度から検体中のグルコース濃度に換算します。

この色素系はTrinderによる方法に準じています。³⁾また本品の測定原理については、Curmeらにより報告されています。⁴⁾



リファレンス法

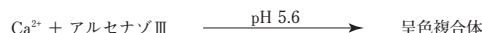
ヘキソキナーゼ法^{5),6)}

Caテスト

本品は、透明なポリエステル支持体に乾燥状態の分析試薬が、多層状にコーティングされています。

検体がスライドに分注されると、多孔性の拡散層で均一に拡散されます。タンパク質と結合しているカルシウムは遊離し、カルシウムのみが拡散層を通過し、下層の試薬層に移動します。この層でカルシウムはアルセナゾⅢと複合体を形成し、このとき最大吸収波長がシフトします。

インキュベーション後、呈色複合体の反射度を測定します。生成される呈色複合体の量は、検体中のカルシウム量に比例します。



リファレンス法

原子吸光分析法⁷⁾

【操作上の注意】

1) 測定試料の性質、採取法

血清、血漿または尿

GLUテスト

血清または血漿

・標準的な採血方法で採血して下さい。

・抗凝固剤には、ヘパリン (ヘパリンリチウムまたはヘパリンナトリウム)、フッ化ナトリウム、シュウ酸カリウムを使用して下さい。

・使用する採血容器の取扱説明書に従い、血清または血漿を血球成分から分離して下さい。

尿

・標準的な方法で検体を採取し、測定まで検体は冷蔵で保存して下さい。

・使用できない検体：防腐剤として、酢酸、塩酸は使用しないで下さい。

検体採取における注意

・強乳び検体の場合は、測定前に検体を2倍希釈して下さい。希釈の方法は【用法・用量 (操作方法)】4) 検体希釈を参照してください。

・強乳び検体および溶血検体の影響については、2) 妨害物質・妨害薬物 欄をご確認下さい。

・フィブリンなどの微粒子によって拡散層が覆われると、酸素の拡散が制限されるため負誤差を生じる場合があります。この影響を最小限にするために、血液が完全に凝固してから遠心分離をして下さい。

- ・遠心分離されていない検体では、解糖により室温では1時間に5～7%グルコースが低下します。⁸⁾
- ・一般に、検体採取器具が測定に影響を与える場合があることが知られています。⁹⁾ ご使用の検体採取器具が測定に適したものであることを確認して下さい。
- ・検体の保管には、汚染や蒸発を防止するため、密閉可能な容器を使用して下さい。
- ・装置上で使用する検体容器の最小充填量については、ご使用の装置の取扱説明書を参照して下さい。

Caテスト

血清または血漿

- ・標準的な採血方法で採血して下さい。
- ・抗凝固剤には、ヘパリン（ヘパリンリチウムまたはヘパリンナトリウム）を使用して下さい。
- ・使用できない検体：EDTA、フッ化物、シュウ酸塩はカルシウムをキレートし、測定結果が低値になるため¹⁰⁾ 使用しないで下さい。また、EDTA治療を受けている患者検体は測定しないで下さい。
- ・採血後2日以内に検体を遠心分離し、血清または血漿を血球成分から分離して下さい。¹¹⁾

尿

- ・標準的な方法で検体を採取し、測定まで検体は冷蔵で保存して下さい。
- ・使用できない検体：防腐剤として、ホウ酸（ギ酸ナトリウム含有）、10%チモール、フッ化ナトリウムは使用しないで下さい。
- ・尿検体は測定前に前処理が必要です。

◆尿検体の前処理

- 注意：酸性化不要の他項目を測定する場合は、検体の一部を小分けし、酸性化して下さい。
- ・24時間尿の場合は、あらかじめ尿の回収容器に6mol/L HClを20mL入れ、検体を回収します。HClを添加せずに検体を回収した場合は、測定の1時間前までに6mol/L HClを20mL入れ酸性化して下さい。¹²⁾
 - ・一部尿の場合は、よく混和した検体5mLを小分けし、6mol/L HClを100 μ L加えます。
 - ・HCl添加後、検体のpHが1.5～5.0であることを確認し、測定します。

重要：尿検体の前処理の手順は、検体にのみ必要な操作です。コントロールやキャリブレーターは、pHの調整は不要です。

重要：pHが1.5以下の場合は、負誤差が生じます。

重要：酸性化した検体から複数項目を測定する場合は、全項目に適したpHに調整して下さい。
例：Ca、Mgを同時に測定する場合は、pH3.0～4.0になるように調整して下さい。詳細は各試薬の電子添文を参照して下さい。

検体取扱いにおける注意

- ・横臥状態にある患者検体では、測定値が3%低下することがあります。また、うつ血状態で採血を行うと測定値が15%上昇することがあります。¹⁰⁾
- ・検体の測定準備（チップのセット、検体の分注など）に炭酸カルシウム粉末の付着した手袋を使用すると、検体が汚染され、測定値が正誤差を受けることがあります。パウダーフリーと表示された手袋においても、手袋の内側に同様な汚染を引き起こす粉末試薬が付着していることがあるので注意して下さい。
- ・一般に、検体採取器具が測定に影響を与える場合があることが知られています。⁹⁾ ご使用の検体採取器具が測定に適したものであることを確認して下さい。
- ・検体の保管には、汚染や蒸発を防止するため、密閉可能な容器を使用して下さい。
- ・装置上で使用する検体容器の最小充填量については、ご使用の装置の取扱説明書を参照して下さい。

検体の保管と安定性

		18～28℃	2～8℃	－18℃以下
血清または血漿	グルコース	24時間	7日間	6ヶ月間
	カルシウム	24時間	22日間	6ヶ月間
尿	グルコース	24時間	3日間	28日間
	カルシウム	5日間	5週間	6ヶ月間

2) 妨害物質・妨害薬物

GLUテスト

血清および血漿

- ・CLSIプロトコールEP07に従い、共存物質の影響を確認しました。それぞれの物質を表示した濃度で検討した時、以下の誤差を生じました。

共存物質*	共存物質の濃度	GLU濃度 (mg/dL)	誤差** (mg/dL)
グルタチオン	92mg/dL	73	－10.4
ヘモグロビン	1000mg/dL	79	7.6
総蛋白	15g/dL	74	8.8
		217	20.4

* これらの結果は代表的なものであり、テスト内容により、結果が異なることが予想されます。表に示した以外の濃度における共存物質の影響を予測することはできません。他の共存物質が存在する可能性もあります。

** 誤差は、観察された最も大きい差から推算された数値です。

- ・外見上溶血している検体（ヘモグロビン＞200 mg/dL）では、溶血の際流出するカタラーゼの影響により、負のバイアスを生じます。この場合、GLUの測定結果に溶血を意味するフラグHが記されます。
- ・異常高値の脂質検体は、酵素反応に影響を与え測定値にバイアスが生じることがあります。このため乳び検体は測定前に2倍希釈して下さい。

尿

共存物質*	共存物質の濃度	GLU濃度 (mg/dL)	誤差** (mg/dL)
アスコルビン酸	50mg/dL	31	－14.0
	13mg/dL	171	－13.7
デキストラン40	7.5g/dL	31	8.0
	2.5g/dL	169	14.4
ヘモグロビン	250mg/dL	33	8.5
N-アセチルシステイン	25mg/dL	166	－14.0

* これらの結果は代表的なものであり、テスト内容により、結果が異なることが予想されます。表に示した以外の濃度における共存物質の影響を予測することはできません。他の共存物質が存在する可能性もあります。

** 誤差は、観察された最も大きい差から推算された数値です。

その他の影響

- ・ある種の薬剤は、in vivoにおいてグルコースの測定値に影響を与えることが報告されています。詳しくは、主要文献を参照して下さい。^{13), 14)}

Caテスト

血清および血漿

- ・CLSIプロトコールEP07に従い、共存物質の影響を確認しました。それぞれの物質を表示した濃度で検討した時、以下の誤差を生じました。

共存物質*	共存物質の濃度	Ca濃度 (mg/dL)	誤差** (mg/dL)
セフォキシチン	663mg/dL	7.7	0.28
		11.3	0.50
コレステロール	525mg/dL	6.3	0.34
	625mg/dL	9.5	0.34
ガドジアミド	86mg/dL	7.4	0.35
ヘモグロビン	1000mg/dL	8.3	－0.30
ナトリウム	391mg/dL	7.4	0.35
		11.1	0.52
ソルビトール	1800mg/dL	11.9	－0.37
総蛋白	15g/dL	12.1	－0.45

* これらの結果は代表的なものであり、テスト内容により、結果が異なることが予想されます。表に示した以外の濃度における共存物質の影響を予測することはできません。他の共存物質が存在する可能性もあります。

** 誤差は、観察された最も大きい差から推算された数値です。

その他の影響

- ・開栓状態で検体を室温に放置すると、カルシウム値は最大で0.4mg/dLの正誤差を生じます。この変化は、CO₂の喪失により、検体のpHが変化するために生じます。この誤差は、空気の遮断と迅速な測定により最小限にできます。これらの手順を厳守することは、小児検体や少量の検体を測定する上で重要です。
- ・ある種の薬剤は、in vivoにおいてカルシウムの測定値に影響を与えることが報告されています。詳しくは、主要文献を参照して下さい。^{13), 14)}

3) その他

- ・スライドカートリッジは、機器に装填する直前まで、包装ラップから取り出さないで下さい。
- ・検体、キャリブレーター、コントロールは、使用前によく混和し、18～28℃に戻してから使用して下さい。
- ・アルミ包装に損傷等が認められる場合は、使用しないで下さい。損傷の兆候がないか包装を確認し、外箱を開ける際に鋭利な器具を用いる場合は、内部の個包装にダメージを与えないよう気をつけて下さい。

【用法・用量（操作方法）】

1) 試薬の調製方法

スライドの保存と準備

- ・未開封のスライドカートリッジは-18℃以下で保存します。なお、4ヵ月までは2～8℃に保存することも可能です。
- ・スライドカートリッジは、機器に装填する前に18～28℃に戻します。-18℃以下から取り出した場合は60分以上、2～8℃からの場合30分以上放置し、18～28℃に戻します。18～28℃に戻したカートリッジは、24時間以内に機器に装填して下さい。
- ・スライド サブライ内でカートリッジは最大1週間保存する事ができます。1週間以内に使用されなかったカートリッジは、新しいカートリッジと交換して下さい。
- ・過酸化水素の近くで保管しないで下さい。
- ・装置にカートリッジを充填したまま2時間以上電源を切っていた場合およびスライドサブライ内より一度取り出されたカートリッジは、コントロールを用いて試薬性能を確認して下さい。

2) 必要な器具・器材・試料等

- ・ビトロス キャリブレーションキット1

＊＊・コントロール

- ・GLUテスト用希釈液
血清および血漿用：ビトロス7%BSA希釈液
FS希釈液パック2
精製水、生理食塩液
FS希釈液パック3、FS希釈液パック2
- ・Caテスト用希釈液
血清および血漿用：精製水、生理食塩液
FS希釈液パック3、FS希釈液パック2
精製水
FS希釈液パック3
- ・尿用前処理剤：6mol/L HCl（Caテスト用）

3) 測定（操作）法

臨床化学自動分析装置を使用します。

GLUテスト

- (1) スライドに検体2.7μLを滴下し、37℃で約5分間反応させます。
- (2) 上記反応中に波長540nmにおける反射度を測定します。
- (3) グルコース既知濃度の標準試薬を用いて、上記(1)、(2)と同様に測定し、作成された標準曲線から、検体中のグルコース濃度を換算します。

Caテスト

- (1) スライドに検体3.5μLを滴下し、37℃で約5分間反応させます。
- (2) 上記反応中に波長680nmにおける反射度を測定します。
- (3) カルシウム既知濃度の標準試薬を用いて、上記(1)、(2)と同様に測定し、作成された標準曲線から、検体中のカルシウム濃度を換算します。

4) 検体希釈

GLUテスト

- ・測定範囲を超えた血清および血漿検体、または強乳び検体は、ビトロス7%BSA希釈液で2倍希釈し、再度測定して下さい。測定結果を2倍し、検体本来の濃度を求めます。
- ・測定範囲を超えた尿検体は、精製水または生理食塩液で2倍希釈し、再度測定して下さい。測定結果を2倍し、検体本来の濃度を求めます。

Caテスト

- ・測定範囲を超えた血清および血漿検体は、精製水または生理食塩液で2倍希釈し、再度測定して下さい。測定結果を2倍し、検体本来の濃度を求めます。
- ・測定範囲を超えた尿検体は、pH調整後の検体を精製水で2倍希釈し、再度測定して下さい。測定結果を2倍し、検体本来の濃度を求めます。

5) キャリブレーション

- ・以下のタイミングで、キャリブレーションを実施して下さい。
 - スライドロット番号の変更時
 - 機器の修理またはメンテナンスの際に、測定値に影響する部品が交換された場合
 - 各施設の規定によって必要となる場合
 - 精度管理の結果が、常に許容範囲を超えている場合
 - 特別なメンテナンスを実施した後
- 詳しくは、装置の取扱説明書を参照して下さい。

6) 精度管理

- (1) 精度管理用コントロールの選択

＊＊・コントロールを測定する前に本品との適合性を評価して下さい。

＊＊・精度管理用コントロールでは、以下の理由により他の測定法とは異なる値を示す可能性があります。

- ヒトマトリックスとかけ離れている場合
- 高濃度の保存剤、安定化剤、その他添加物が含まれている場合
- ・安定化剤としてエチレングリコールを用いているコントロールは使用できません。
- ・尿検体を測定する場合は、一般的な尿用のコントロールを使用して下さい。
- ・Caテストにおいて、尿用コントロールや外部精度管理用コントロールの場合、不溶性カルシウムは含まれておりませんので、検体の前処理（酸性化）は必要ありません。

(2) 推奨操作手順

- ・臨床的に適切な濃度のコントロールを選択して下さい。
- ・コントロールは、患者検体の測定前や測定中に患者検体と同様に測定して下さい。
- ・以下の場合には、コントロールを測定し、性能確認を行って下さい。
 - キャリブレーション後
 - 施設の規定に従うか、または少なくとも1日1回
 - 特別なメンテナンスを実施した場合
- ・コントロールの測定結果が許容範囲外だった場合は、検体の測定結果を報告する前に原因を追究して下さい。
- ・詳しくは、装置の取扱説明書を参照して下さい。

＊＊(3) その他

- ・コントロールの取扱説明書を参照して下さい。

【測定結果の判定法】

参考基準範囲

グルコース[®]

血清	空腹時成人：74～100mg/dL（4.1～5.6mmol/L）
尿	随時尿：1～15mg/dL（0.1～0.8mmol/L）
	24時間尿：＜500mg/day*（＜2.8mmol/day**）
	* グルコース濃度（mg/dL）×24時間尿量（dL）＝mg/day
	**グルコース濃度（mmo/L）×24時間尿量（L）＝mmol/day
	（単位の換算式 mmol/L＝mg/dL×0.05551）

カルシウム

血清 [®]	8.6～10.3mg/dL（2.15～2.57mmol/L）
尿 ¹⁵⁾	無Ca食：5～40mg/day*（0.13～1.00mmol/day**）
	低Ca食：50～150mg/day*（1.25～3.75mmol/day**）
	平均Ca食：100～300mg/day*（2.50～7.50mmol/day**）
	* カルシウム濃度（mg/dL）×24時間尿量（dL）＝mg/day
	**カルシウム濃度（mmo/L）×24時間尿量（L）＝mmol/day
	（単位の換算式 mmol/L＝mg/dL×0.2495）

母集団による変動があるため、各施設でご検討下さい。

【性能】

1) 性能

(1) 感度

GLUテスト

- ・管理用検体（グルコース濃度0mg/dL）を測定するとき、測定値は20mg/dL以下となります。
- ・既知濃度の管理用検体（低濃度）を測定するとき、測定値は既知濃度の±20%以内にあります。

Caテスト

- ・管理用検体（カルシウム濃度0mg/dL）を測定するとき、測定値は1mg/dL以下となります。
- ・既知濃度の管理用検体（低濃度）を測定するとき、測定値は既知濃度の±20%以内にあります。

(2) 正確性

GLUテスト

- ・既知濃度の管理用検体を測定するとき、既知濃度の±20%以内にあります。

Caテスト

- ・既知濃度の管理用検体を測定するとき、既知濃度の±20%以内にあります。

(3) 同時再現性

GLUテスト

- ・同一検体を5回以上同時に測定するとき、測定値のCV値は10%以下となります。

Caテスト

- ・同一検体を5回以上同時に測定するとき、測定値のCV値は10%以下となります。

(4) 測定範囲

GLUテスト

血清および血漿	：20～625mg/dL
尿	：20～650mg/dL

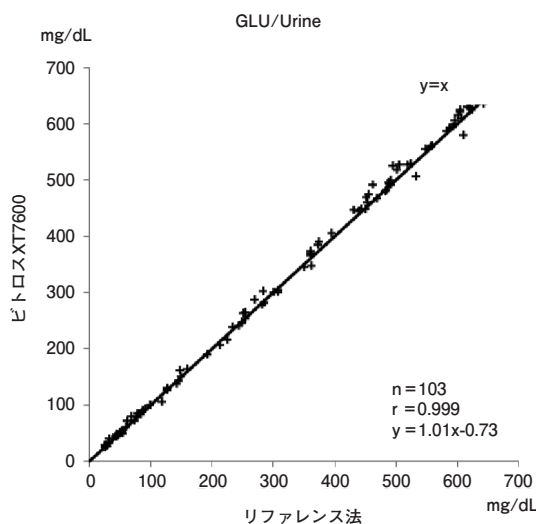
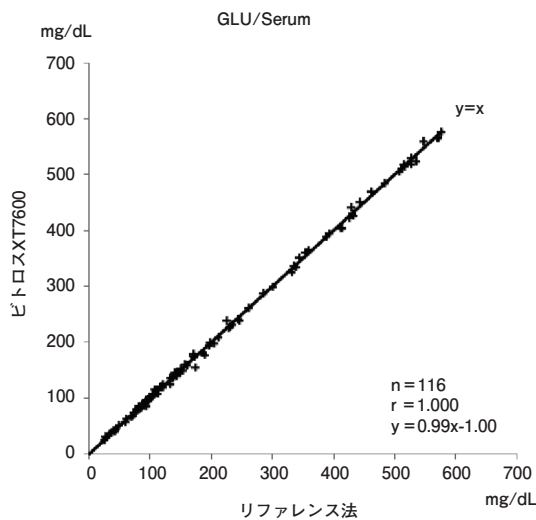
Caテスト

血清および血漿 : 1.0~14.0mg/dL
尿 : 1.0~17.8mg/dL

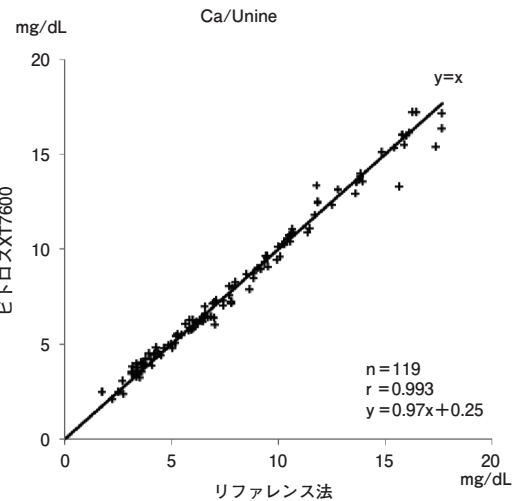
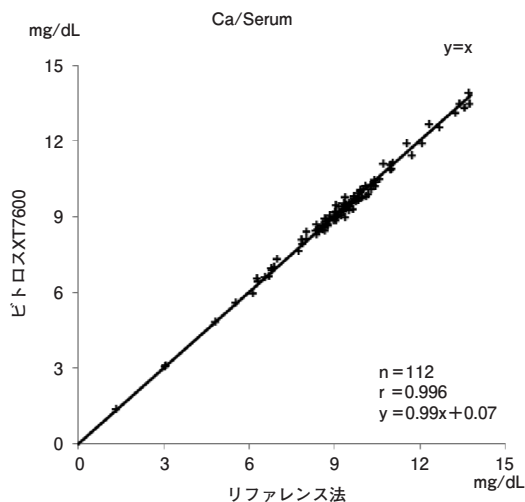
2) 相関性試験成績

本製品 (y) とリファレンス法 (x) との相関は下記の通りです。

GLUテスト



Caテスト



3) 校正用の基準物質 (標準物質)

GLUテスト : SRM917 (NIST)

Caテスト : SRM915 (NIST)

【使用上又は取扱い上の注意】

1) 取扱い上 (危険防止) の注意

- 全てのヒト由来の物質には、感染の危険性があります。現在のところ、HBs抗原、HIV1抗体、HIV2抗体、HCV抗体および他の感染症関連検査で感染性を完全に否定できる検査法はないので、感染の危険性があるものとして取り扱って下さい。
- 身体汚染防止のため、作業室内では、ゴム手袋、専用の実験衣、安全メガネを着用して下さい。
- 作業室内では、飲食・喫煙はしないで下さい。又ピペットを口で吸わないで下さい。

2) 使用上の注意

- 作業室内全体の十分な換気をお勧めします。

3) 廃棄上の注意

- 不要な検体、ヒト由来の試薬、測定済み試薬、廃液および汚染されたチップ等は、感染の危険性があるものとして適切な滅菌処理を行った後、廃棄して下さい。[例：殺菌剤処理 (次亜塩素酸ナトリウム液 (有効塩素濃度1000ppm以上) または2%グルタールアルデヒド液、1時間以上浸漬) またはオートクレーブ滅菌処理 (121℃、20分以上)]

【貯蔵方法・有効期間】

1) 貯蔵方法

- 18℃以下で保存して下さい。

* 2) 有効期間

18ヵ月

使用期限は、製品に表示しております。使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

【包装単位】

製品コード	製品名	包装
091155	ビトロス XTスライド GLU-Ca	60スライド/1カートリッジ 5カートリッジ/1箱 (300スライド)

【主要文献】

- Tietz NW (ed). Textbook of Clinical Chemistry. ed. 2. Philadelphia: WB Saunders; 928-960; 1994.
- Tietz NW (ed). Fundamentals of Clinical Chemistry. ed. 3. Philadelphia: WB Saunders; 705-713; 1987.
- Trinder P. Determination of Glucose in Blood Using Glucose Oxidase with an Alternative Oxygen Receptor. Ann. Clin. Biochem. 6:24; 1969.
- Curme HG, et al. Multilayer Film Elements for Clinical Analysis. Clin. Chem. 24:1335-1342; 1978.
- Neese JW, Duncan P, Bayse DD, et al. Development and Evaluation of a Hexokinase/Glucose-6-phosphate Dehydrogenase Procedure for Use as a National Glucose Reference Method. HEW Publication No. (CDC) 77-8330. HEW. USPHS, Centers for Disease Control; 1976.
- Hexokinase/G-6-PDH System Applied to a Somogyi Deproteinized Supernate. Fed. Reg. 39:24136; 1974.
- Cali JP, et al. Atomic Absorption. NBS Reference Method (modified). Clin. Chem. 19:1208; 1987.

8. Tietz Fundamentals of Clinical Chemistry and Molecular Diagnostics, 7th ed. St. Louis: Elsevier; 2015.
9. Calam RR. Specimen Processing Separator Gels: An Update. J Clin Immunoassay. 11:86-90; 1988.
10. Tietz NW. Textbook of Clinical Chemistry. ed. 2. Philadelphia: WB Saunders; 66-67, 1900; 1994.
11. Clinical Laboratory Handbook for Patient Preparation and Specimen Handling. Fascicle VI: Chemistry/Clinical Microscopy. Northfield, IL: College of American Pathologists; 1992.
12. Burtis CA, Ashwood ER. eds. Textbook of Clinical Chemistry. ed. 2. Philadelphia: WB Saunders; 1905; 1994.
13. Young DS. Effects of Drugs on Clinical Laboratory Tests. ed. 4. Washington D.C.: AACC Press; 1995.
14. Friedman RB, Young DS. Effects of Disease on Clinical Laboratory Tests. Washington, D.C.: AACC Press; 1990.
15. Tietz NW (ed). Fundamentals of Clinical Chemistry. ed. 5. Philadelphia: WB Saunders; 968; 2001.

＊ ＊【 問い合わせ先 】

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
お客様サポートセンター Tel.0120-03-6527
〒104-0053 東京都中央区晴海二丁目1番40号
晴海プライムスクエア

＊ ＊【 製造販売元 】

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
お客様サポートセンター Tel.0120-03-6527
〒104-0053 東京都中央区晴海二丁目1番40号
晴海プライムスクエア